

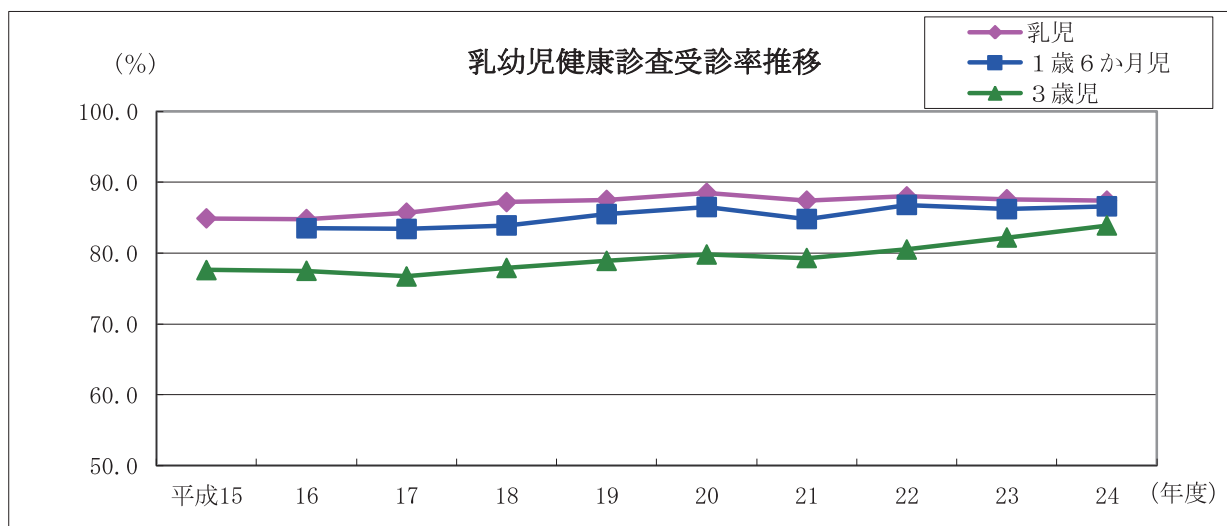
平成24年度乳幼児健康診査から

この報告書は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までに実施された県内41市町村の乳児、1歳6か月児、3歳児の健康診査結果を乳幼児の健康と育児環境等について、市町村別に集計をまとめた。

平成24年度健康診査をまとめるにあたり、特に乳幼児の生活習慣や栄養相談の支援等の新たな視点からも集計がなされている。

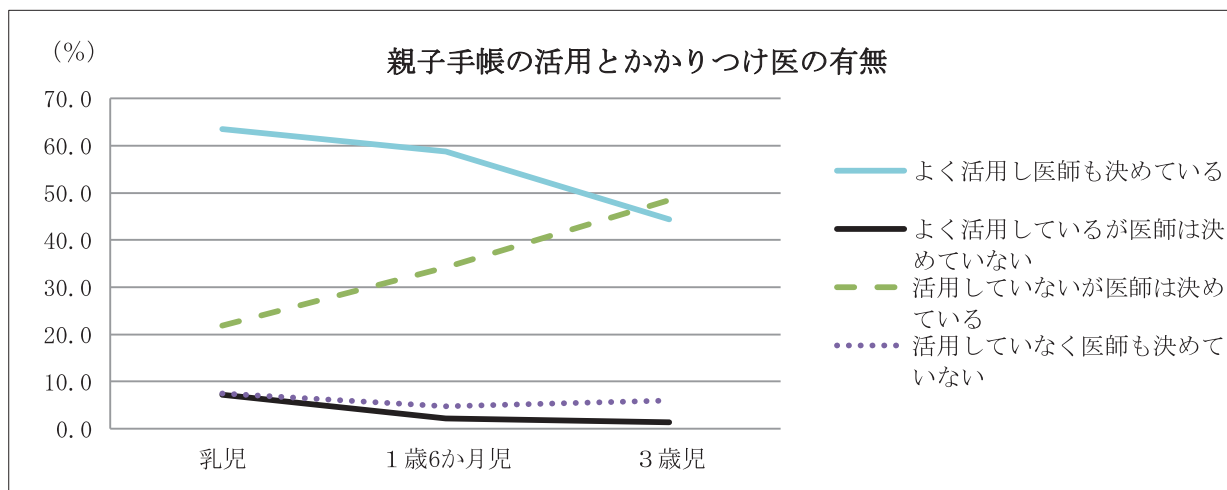
(1) 一般健康診査の受診状況について

全市町村とも健康診査の対象者数は、健診連絡者数としている。それを基に平成24年度の各々の受診率を算出すると、乳児は87.4%、1歳6か月児は86.6%、3歳児は83.9%となっている。乳児は受診率に減少がみられたが、1歳6か月児と3歳児には増加がみられる。



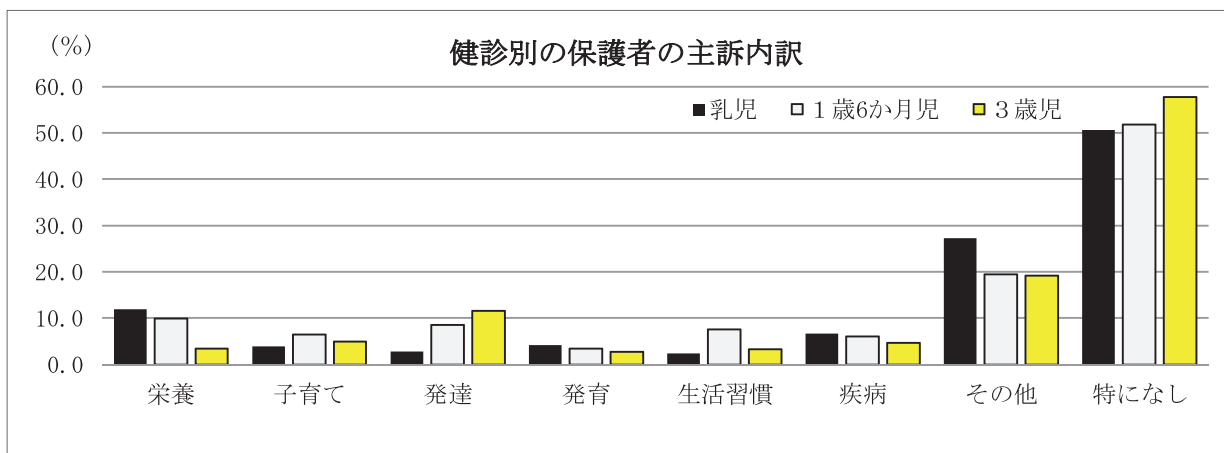
(2) 乳幼児期の親子健康手帳の活用とかかりつけ医について

乳幼児健康診査時の問診項目で、親子健康手帳の活用とかかりつけ医の有無の関係をみると、乳児期は、手帳をよく活用しかかりつけ医も決めている割合が高い。また、3歳児期になると手帳の活用割合は減少するが、かかりつけ医を決めている割合は増加している。



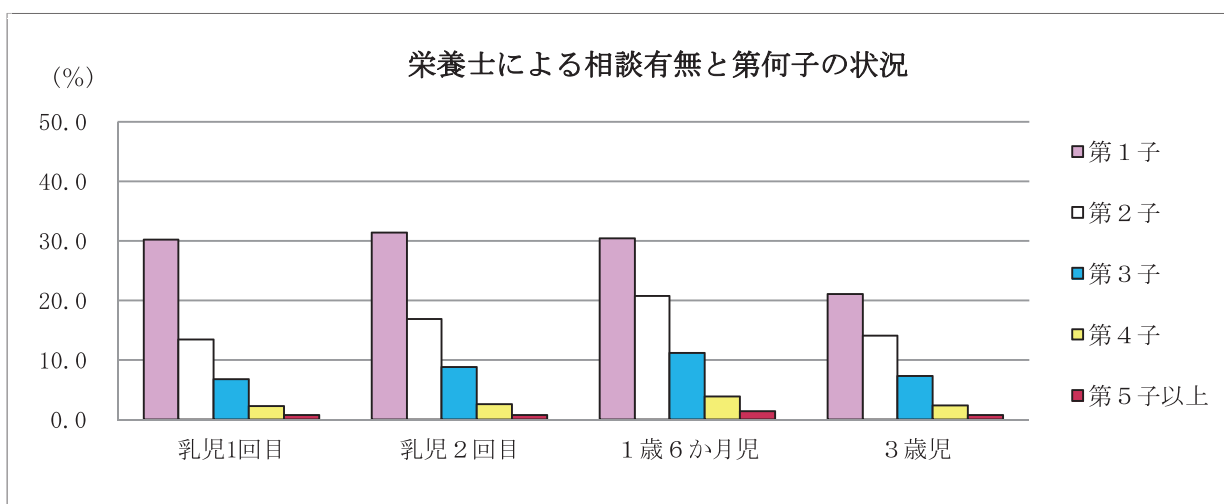
(3) 乳幼児健康診査時の保護者の主訴

乳幼児健康診査時の保護者の主訴について分類すると、乳児期と1歳6か月児期については、栄養に関する主訴がみられ、1歳6か月児や3歳児に成長するにつれ発達に関する主訴が増えている。



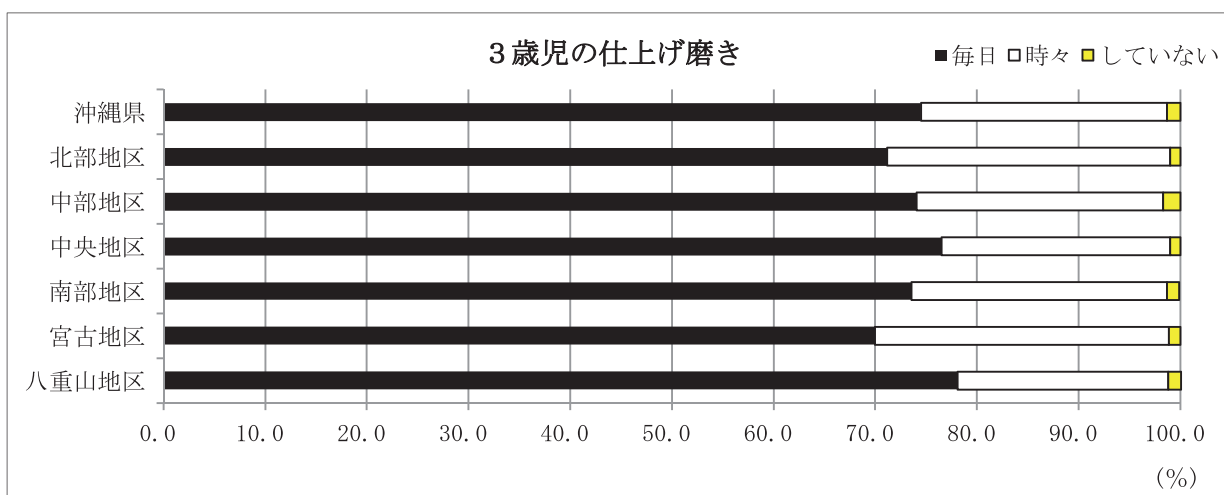
(4) 栄養士による相談有無と第何子の状況

乳幼児健康診査における栄養相談の実施とその児が第何子かをみると、第1子の相談する割合が高く、第2子以降の相談割合は低い状況にある。



(5) 3歳児の仕上げ磨きについて

3歳児の保護者による仕上げ磨きについて、地区別に違いがみられる。



おわり

平成24年度までの健康診査結果一部を紹介したが、詳細は各健診の項目を参照してください。